

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
 〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
 電話 0423-96-2909
 FAX 0423-96-2981
 郵便振込 00130-7-764159
 高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

「らい予防法の廃止に関する法律」の施行によって絶対隔離を目指したハンセン病対策も終りを告げました。しかし、これまでの歴史が忘れられてしまつてはハンセン病患者の苦難が生かされないこととなります。ハンセン病対策の誤りはわが国の医療行政の誤りの根源とも言われますから、歴史を後世に伝えて、誤ちを二度と繰り返さないための教訓にしなくてはなりません。

ところで、ハンセン病資料館も今年で四周年を迎えますが、先行きどうなるか



資料館運営委員長 成田 稔

ハンセン病資料館の 将来を思う

はつきりしないのが実状です。現状は、主に全生園の入園者のボランティア活動に依存しています。(その



「白鳥」 趙昌源画

ために、ハンセン病資料館を全生園付属のように言う誤解もあると聞きました。が、それはいつまでも続くというのではなく、五年、十年先がどうなるかわかりません。

もつとも、全生園の入所者自治会は、ここを緑の公園として東村山市に残したいと願っており、それが実

現すると、ハンセン病資料館もいずれは東村山市に移されるでしょう。

とは言つても、これは四十年、五十年先の話ですから、全生園の入所者のボランティア活動が期待できなくなつた後が問題です。

そのあたりの話し合いをハンセン病資料館(藤楓協会)、全療協、全生園によつて先ず煮詰め、他のハンセン病療養所からも、さらに多くの資料が寄せられることを願いながら、まずはハンセン病資料館の目的を広くアピールして行きたいと考えています。



本年もどうぞよろしく
 お願い申し上げます

資料館館長 大谷藤郎
 運営委員長 成田 稔
 運営委員・館員一同

ハンセン病資料館 一(96)年のあゆみ

昨年は人権無視、偏見差別の根源ともいわれた「らい予防法」が八十九年ぶりに廃止され、関係者にとっては正に人権回復、復権元年の記念すべき年であった。

納骨堂参拝、資料館見学、全患協の要請を受ける。

▼3月20日 IDE A (ハンセン病回復者の国際組織)のRK・コパール氏(インド)/アンウェイ・スキンスクス氏(アメリカ)が資料館へ来訪。懇談。

らい予防法廃止への波紋は大きく資料館を訪れる人も多様であった。入館者は昨年十一月末で三万四二六四人(一日平均三十八人)に達し、そのうち団体は五一四、一万五七〇〇人で全入館者の五割となっている。各看護学校の他、宗教関係、市民団体、各県婦人会など、団体による来館は昨年より若干増えている。次に資料館昨年一年間の主な出来事を記す。

▼4月1日 らい予防法廃止、新法施行される。

▼4月13日 菅直人厚生大臣が来訪。資料館を見た後納骨堂で献花。その後公会堂で予防法廃止の遅れを謝罪する。

▼2月21日 衆議院厚生委員会一行十三人、参事、調査室関係者七人、厚生省外関係者多数が衆議院のバスその他で資料館に到着。

▼5月1日 6月30日 邑久光明園、大島青松園普むかし写真展

開催。6月10日には光明園より二十四名がバスで見学に来館。

▼5月10日 全生園入園者自治会が「復権元年」記念集会を開催する。

▼6月4日 全療協が椿山荘で「らい予防法廃止・新法制定記念の集い」を開催。以後各園でも次々と「記念の集い」を開催。

▼6月23日 資料館開館三周年記念シンポジウム「これからをどう生きるか」を開催。稀少難病、精神、HIV、ハンセン病の各代表、大谷館長の講演、質疑応答が行われる。



納骨堂 参拝する菅厚生大臣

▼8月8日 開館以来の入館者三万人(東村山市本町の樋口美穂子さんに記念品を贈る)となる。

▼8月24~25日 東村山市商工会主催の「サマーフェスティバル96」が、らい予防法廃止を記念して全生園校並木下と資料館駐車場で開催された。この二日間で市民六百五十六人が資料館を見学した。

▼8月29日 ADEAのコパール(インド)、ラミレス(アメリカ)、ドゥエ教授(ベトナム)の三氏が全生園、資料館を訪問。国際的なネットワークづくりを訴える。

▼8月31日 大阪HIVグループ一行十名が来訪。平沢保治さん、大谷藤郎先生

の講演を聞き、翌日は資料館を見学する。

▼9月2日 霞ヶ関の法曹会館でハンセン病普及映画「見えない壁を越えて」制作委員会が藤楓協会主催で開催される。

▼10月1日~11月17日 趙昌源絵画展―小鹿島の光と影―(五十点)を開催。開会式には韓国より趙先生御夫妻も参加、新聞報道もあり会期中は大勢の人が観賞した。

▼10月13日 コロニー印刷恒例の「コロニーまつり」が資料館駐車場と校並木下で開催され、大勢の市民で賑わった。

▼11月3日 東村山市秋のみどりの祭典が全生園で開催され、資料館がスタンプリーの中継地となる。

▼11月21日~12月22日 全生園看護学校ハンセン病研究班と淑徳短期大学社会学部福祉学科柳屋ゼミの「予防法についてのアンケート」の展示会を開催。

日活「愛する」出演者 理解のため資料館へ

日活映画の

再建第一作として、熊井啓監督による「愛する」が決定され、すでに撮影が始まっている。

この映画は故遠藤周作原作の「私が棄てた女」をもとに現代風に脚色されたもので、主人公森田ミツがハンセン病と誤



説明をきく小林桂樹さん

愛、恋人との愛を主題に、らい予防法廃止後も残る偏見や差別の問題にも真摯にふれている。

撮影前、熊井監督、山口映像統括室々長、福田プロデューサーらも「脚本について意見を開きたい」と

診されながら病院に残り、患者たちとふれあう無償の

資料館に來られた。その後熊井監督より「ハンセン病

を整理しつつ、どのような支援策を講ずることが必要

染症課で、委員は次の通り
▼今泉正臣 星塚敬愛園園長
▼北川定謙 埼玉県衛生

社会復帰を支援する 調査検討会設置

厚生省のエイズ結核感染症課では「らい予防法廃止に関する法律」及び、衆参厚生委員会の附帯決議に基づき、社会復帰者に対する支援の措置を講ずるため、平成九年度予算の中に「社会復帰支援方策調査検討会」設置の要求をした。

これは「入所者の社会復帰に対する状況及び諸問題

て調査検討を行う」を目的

に設置するもので、事務局は藤楓協会・エイズ結核感

部参事▼神美知宏 全国ハンセン病療養所入所者協議

会事務局長▼金城英子 沖

への理解を深めるため、出演者は資料館へ行き勉強してきてほしい」との要望があつたとのことで、11月12日、小林桂樹さん、鴨川てんじさんが来館された。

その後、小林亘さん、岸



松原さん



岸田さん

田今日子さん、松原智恵子さんらが次々と訪ずれ、館員の説明にうなづき、時には質問をしながら展示物を真剣に観ておられた。多くの人がこの映画をみて、ハンセン病への正しい理解を深めることを期待したい。

慰廃園回顧展

3月1日より開催

資料館では3月1日より4月20日まで、研修展示室において社団法人・好善社の提供、ご協力による「慰廃園回顧展」を開催することになった。内容は写真とゆかりの資料などである。

慰廃園は一八九四(明治27)年、キリスト教の好善社が東京目黒に設立したもので、以来四十八年間、ハンセン病の救済に尽力してきたが、運営困難なため、一九四二(昭和17)年8月閉鎖され、入園者五十五名は全生園へ収容された。

来館者の声

作品はどれも素晴らし

・事務 34歳 男性

この資料館を通して実態を知り、如何に世間が間違っていた理解をしてきたかを知った。今後正しい理解がされるように一人一人が言い伝え、そうした状況をつくる必要があると思う。

・学生 20才 男性

とても多数の資料が集め

明治九(一八七六)年一月二四日、福岡県に生まれる。明治二四年十月、鍋冠日親の霊場法性寺(福岡市蓮池)貫名日良の門に入り師匠の転任に伴い、福井県妙泰寺に移り院代として寺の興隆に努める。

二九年九月、宗学研鑽のため京都に留学、三七年妻サダと結婚。三八年七月上京し哲学館(現東洋大学)に学ぶ。三九年七月夏休み

別を受けてきたということをはじめ知った。収容所での悲惨な様子を知りショックだった。予防法の廃止はもつと大きなニュースとなるべきなのに、このことを反省して二度とないよう、みんなに伝えられたらと思う。

・小学校六年 11才 女性

病気によって人を差別することはぜつたいいけない

・学生 18才 女性

を利用し、人間礼拝の思想の布教と教化の心願の為身延山に参詣のおり、身延河原に住むらいに罹患した少

先駆者⑩

網脇龍妙

一八七六〜一九七〇

年と出会い、らい病患者の悲惨な生活を見、らい病救済を決意す。

時の身延山法主豊水日良

たちが生々しく恐しさを感じてしまった。

患者さん達の作品はどれもすばらしい。考えさせられること大でした。

・主婦 27才 女性

何か私で力になれることはないのか、改めて今までの自分の生き方について考えさせられた。息がつまる思いだった。

・看護士 30才 男性

昔の患者さん達の苦勞よくわかり勉強になった。今後も度々来館させて頂く。

大正九(一九二〇)年、財団法人を設立し理事長となる。昭和五年九州分院を開設、昭和一五(一九四〇)年四月より横須賀市大明寺住職兼務し、布教に勤めつつ施設の運営に当る一方、国立療養所五カ所に日蓮宗会堂建設。昭和四五年二月五日九五歳にて遷化。法号深敬院日喙、日蓮宗大僧正身延町名誉町民、仏教伝道文化賞、勲三等瑞宝賞等受賞。

改善に努める。

無菌地帯

—らい予防法の

— 真実とは —

大竹 章著

定価 二五〇〇円

B六判上製六五二ページ

発行 草土文化

皓星社ブックレットNo.4

ハンセン病資料館

三周年記念シンポジウム

—これからを

—どう生きるか—

A五判 七四ページ

定価 八〇〇円

◎資料館三周年記念募集

評論入選三篇も収録

◎あとがき

昨年は予防法に明け暮れた一年。有史以来の病氣といわれる「らい」の歴史は悲惨と苦難の連続。

予防法は人権無視、偏見差別の根源。八十九年ぶり法の廃止は天の声。先輩諸靈に黙す。生き残った人達に幸いあれ!

(修)